

## 特別養護老人ホーム 天神

## 1 施設を取り巻く現状と課題

第9期高齢者福祉計画・介護保険計画（2021年度～2023年度）の策定以降も、出雲市の高齢者人口は増加傾向にあり、令和5年（2023年）現在高齢化率は30.3%と推移している。出雲市の高齢者人口の推計によると、高齢者数は令和22年（2040年）頃まで増加し、後期高齢者の85歳以上の増加がピークを迎え、高齢化率もさらに上昇する見込みである。介護サービス別事業費の推計から、令和22年（2040年）の介護サービス量は、介護老人福祉施設、短期入所生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、認知症対応型共同生活介護ともに増加する見込みとなっている。「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」から、自宅より介護施設等を望まれる人が上回る結果となっており、家族への負担や身体的な不安などから、安心な暮らしを望まれる人が増えている傾向がある。高齢者の暮らしが多様化するなかで、安全で安心な生活を送ることができる施設入所サービスの役割は大きい。

介護老人福祉施設の入所申込者は令和2年（2020年）から減少傾向であり、出雲圏域では有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅等が増加している影響が大きい。介護が必要な状態となる後期高齢者人口が増加しているにも関わらず、待機者数の減少傾向は続いており、今後の動向を注視する必要がある。

また、慢性的な介護人材不足がより顕著となっており、出雲市においては、行政が主体となり介護人材の確保・定着に向けた施策の推進を行っているものの厳しい状況である。市内介護サービス事業所でも、人員不足を理由に休廃止や事業を縮小している事業所が目立ってきた。出雲圏域では、介護人材の確保についても事業所間で競合が加速している現状であり、外国人材の活用や若年層の将来的な人材確保の取組が進められている。

令和9年度には介護保険法の改定となる。今後の大変革に向けた備えとして、認知症対応力の強化や医療連携・地域連携が重要となる。介護老人福祉施設として、今後も認知症や重度化、医療依存度の高い高齢者の増加が見込まれる中、入居者のニーズに応え、安定的にサービスを提供するため、看取り介護や医療的ケアへの積極的な取組を進めるとともに、専門性の高い支援の充実に努めていく。

こうした情勢を踏まえながら、「サービスの質の向上」、「職場づくり」、「経営」の視点から以下の取組を継続することとする。

「サービスの質の向上」については、実践理念である「普通の暮らしの継続～あなたらしさを支えます」の下、取組を継続する。その人らしさに寄り添った個別ケアを進め、新たなICTを活用したケアの充実を目指す。大規模な自然災害や感染症

等の有事への的確に対応するため、業務継続計画の実効性と検証を行い、入居者の安心安全な暮らしを保障する。

「働きやすい職場づくり」については、生産性向上推進部会において、更なる ICT 活用により主体的に職場環境や業務の改善に取り組み、そのシステムづくりと業務の省力化・効率化、負担軽減等を進めていく。やりがいを感じられる職場とは、そして魅力を感じられる施設とは、職員間で対話することで、人材確保・人材育成につながる取組を継続し、天神の魅力を広い世代へ PR していく。

「経営」については、事業規模から収支の抜本的な見直しが必要である。現在、目標利用率は概ね維持することができているものの、今後の待機者数の動向や慢性的な人材不足を視野に入れ、持続可能な運営体制の確保に向け、人員配置の最適化、拠点間の業務連携の強化など、本体施設とサテライトの2拠点運営のあり方や将来的な事業の展開について検討する時期にある。設備面では、天神・おやまともに老朽化が目立ってきていることから、優先順位を整理し、計画的に修繕、更新を行う必要がある。地域に根差した信頼される施設であるために、出雲圏域の状況を踏まえた中長期的な視点での事業運営を検討していく。

## 2 施設の実施策と取組の方向性

### (1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上

#### ア 個別ニーズに応じた専門的なケアの充実で、個々の利用者 QOL を高める。

実施施策	職員の介護知識・技術の向上と専門性を生かした支援の充実
現状と課題	超高齢化、重度化が進み、認知症ケア・医療的ケア・看取り介護・緊急時対応など、より専門性の高い支援ニーズが増加しているが、職員の知識・技術レベルには差があり、ケアの質や方法にばらつきが生じている。
取組の方向性	① 認知症ケア・看取り介護・医療的ケアなど、専門性の高い分野において、介護技術の標準化と職員の継続的なスキル向上を図るため主体的に学べる環境を整え、ケアの質の統一を進める。 ② 緊急時対応を含めた判断力や対応力の底上げを図る。

実施施策	チームケアの強化と情報共有体制の充実
現状と課題	チーム内での情報共有にばらつきがあり、ケア方針や支援内容の理解に職員間で差が生じることがある。また、チームとしての理念や目標の共有が十分でなく、職員が同じ方向を向いて取り組む体制づくりが課題である。
取組の方向性	① 施設の理念・ケア方針・目標を明確に共有し、チーム全体が一体となって支援にあたる体制を構築する。 ② 日々の申し送りやカンファレンス、ICT を活用した情報共有を充実させ、ケアの一貫性を高める。 ③ 各ユニット職員や多職種で連携し一人ひとりが力を発揮できるよう、チームリーダーの育成を進め、現場のまとめ役として指導力・調整力を発揮できる人材を育てる。

#### イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	感染症・防災への備えと食事提供体制の見直し
現状と課題	感染症や大規模な自然災害などの発生リスクが高まる中で、入居者の安全を守るための体制強化が求められている。定期的な訓練は実施しているものの内容が形式的になりやすく、実際の場面を想定したリアリティのある訓練が不足している。また、マニュアルの理解や活用にも差があり、ユニットケアにより1人で判断する場面が多く、判断力・危機管理能力の底上げが課題である。 食事提供体制は、一拠点調理・サテライト配送へ移行したが、調理機器の老朽化、人員不足、効率性の課題が残っている。中長期的な食事提

	供体制の見直しの必要性はあるものの具体的な検討が十分ではない。
取組の方向性	<p>① 感染症対策、防災対策・危機管理体制を強化し、実践的な訓練やシミュレーションを取り入れ、マニュアルの見直しと活用方法を全職員に浸透させる。</p> <p>② 食事提供体制について、機器更新・人員配置・効率性など中長期的な見直しを検討し、安定した食事提供と利用者満足度の向上につなげる。</p>

実施施策	尊厳を守るケアと再発防止に向けた仕組みづくり
現状と課題	事故の質による評価を活用した事故防止対策の立案が進みつつあるが、類似の事故が繰り返される場面もあり、個人の注意に頼らず、組織的に再発を防止する体制づくりが課題である。また、入居者の意思や尊厳を守る「権利擁護」の視点が十分に意識されていない場面があり、職員の倫理観や判断力を高め、事故防止と人権尊重の両立を図る体制づくりが課題である。
取組の方向性	<p>① 権利擁護・虐待防止研修を通じて、安全と尊厳を両立した支援を推進し、全職員が「尊厳を守るケア」を意識して取り組む風土を育てる。</p> <p>② 安全研修やケース検討のあり方を見直し、原因分析力や再発防止策の質の向上を図る。</p>

#### ウ テクノロジーを活用した根拠のあるケアの提供で、サービスの質を高める。

実施施策	ICTを活用した業務効率化と時間創出
現状と課題	生産性向上とICT化推進に向けて他施設視察や伴走支援を受け、新たな業務システム導入と眠りSCANの全床導入が決定したが、導入に対する不安や活用方法のイメージが十分に共有されていない状況がある。眠りSCANについては、一部ユニットで全床導入が進み一定の成果もみられるものの、未導入ユニットではデータの意味や活用方法への理解が十分とはいえず、施設全体での統一的な運用が課題となっている。また、生産性向上推進部会を中心に業務の切り分けを進め、介護助手・用務員の役割明確化を図っているが、周辺業務の整理が不十分な部分もあり、介護員が入居者と関わる時間にばらつきがみられる。今後はICTを効果的に活用し、業務の効率化と時間創出を進めることで、入居者との関わりをより大切にできる体制づくりが求められている。
取組の方向性	① 新システムや眠りSCANの導入目的を明確化し、職員がデータを活用してケアの質と業務効率を高められるよう、活用方法の共有と理解

	<p>促進を図る。</p> <p>② 生産性向上推進部会を中心に業務の整理と役割分担を進め、介護員が入居者と関わる時間を確保することで、働きやすくやりがいのある職場環境を整える。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------

<b>実施施策</b>	記録・測定データを活用した根拠あるケアの実践
<b>現状と課題</b>	<p>現在使用しているシステムでは、食事や排泄などの生活状況について記録の入力が定着しており、入居者の状態把握はできているものの、その情報を介護員が日々のケアの見直しや支援方針の検討に活用するまでには至っていない。今後、新システムへの移行に伴い、職員がシステムの操作に慣れた上で、どのようにデータを活用していくかが課題である。また、眠り SCAN の全入居者への導入が進む中で、得られたデータをどのように分析・活用してケアに反映していくかを検討していく必要がある。さらに、LIFE へのデータ提出は実施しているものの、評価項目や指標に対する理解が十分でなく、フィードバック情報の活用に課題がみられる。今後は、LIFE の目的や評価内容を正しく理解し、科学的根拠に基づいたケア実践に活かすための体制整備と職員の育成が求められる。</p>
<b>取組の方向性</b>	<p>① LIFE や眠り SCAN、新システムなどで得られるデータの意味や評価項目への理解を深め、正確な記録・送信・分析を通じて科学的根拠に基づくケアを推進する。</p> <p>② データを活用した支援方針の検討やカンファレンスを充実させ、チーム全体で情報を共有しながら、入居者個々の状態に応じたケアの質向上を図る。</p>

(2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 採用ブランディングの強化と多様な人材活用で、優秀な人材を獲得する。

<b>実施施策</b>	魅力発信による採用促進
<b>現状と課題</b>	<p>出雲圏域では同業の介護事業所が多数存在する上、他業種との採用競争も激化しており、人材確保は年々厳しさを増している。ハローワークや福祉人材センターを通じた求人、法人内での異動、職員の紹介など多様な採用を行っているものの、特に準職員の応募は減少傾向にある。福祉の仕事の魅力を感じてもらうための情報発信は、インスタグラムやホームページにより実施しているが、施設の雰囲気や働く魅力が十分に伝わりきっていない。</p>
<b>取組の方向性</b>	① ハローワーク、福祉人材センター等の求人活動に加え、職員紹介な

	<p>どを通じて人材確保を図る。地域や学校とのつながりを強め、介護職に関心を持つ人を増やす。</p> <p>② インスタグラムやホームページで職員の声や日常の様子を発信し、働く魅力ややりがい・楽しさを伝えていく。全職員が「天神の魅力を広げる担い手」として発信に関わり、認知度とイメージ向上を図る。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<b>実施施策</b>	多様な人材を視野に入れた人員確保の検討
<b>現状と課題</b>	<p>介護を担う人材不足が社会的課題であり、出雲圏域においても慢性的な人手不足が続いている。今後も高齢化が進む中で、限られた人材で質の高い介護サービスを継続していくためには、年齢や経験、国籍を問わず多様な人材が活躍できる環境を整えることが求められている。健康で永く働き続けられる職員を増やし、一人ひとりの知識や経験を活かせる仕組みづくりが課題である。また、外国人材の受入れについては、法人内や出雲圏域の施設における取組や採用状況を参考にしながら、職員の理解を促しつつ、段階的に検討を進めていく必要がある。</p>
<b>取組の方向性</b>	<p>① シニア層・子育て世代・短時間勤務者など、多様な人材が柔軟に働ける勤務体制を検討し、定着を支援する。</p> <p>② 外国人材の活用に向けて、法人内外の事例を参考に情報を収集し、職員への理解促進と受入体制の整備を進める。</p>

イ キャリア形成の仕組みを整え、職員が成長を実感できることで個々のモチベーションを高める。

<b>実施施策</b>	人材育成体制の整備とキャリア支援
<b>現状と課題</b>	<p>新人や若手職員の育成において、指導担当者に負担が集中しやすく、チーム全体で育てる体制が十分ではない。また、スキルアップや資格取得に向けた支援は行っているものの、学びを現場でどう活かすか、キャリアとしてどうつなげるかが明確でなく、成長を実感しづらいことが課題である。職員一人ひとりが目標を持ち、成長を実感できるような育成・キャリア支援の仕組みづくりが求められている。</p>
<b>取組の方向性</b>	<p>① 結果だけでなく努力や姿勢を認め合う“承認のある育成”を進める。OJT や日々の関わりの中で、チーム全員が「気づき」「励まし」「感謝」を伝える習慣を定着させ、成長を実感できる環境をつくる。</p> <p>② 主任・リーダー層が育成の中心となり、新人・非常勤職員も含めて段階的に成長を支援できる体制を整える。</p>

実施施策	成果と感謝を共有する“承認文化”の定着
現状と課題	介護現場では、日々の業務が多忙で一人ひとりの努力や成果が見えにくく、感謝や称賛を伝える機会が少ない。また、ユニット勤務など個性の高い職場環境では、他者との関わりが限定され、職員同士のねぎらいや承認が十分に行き届かない傾向がある。このような状況は職員のモチベーション低下や孤立感につながることもあり、日常的に「認め合い・支え合う」風土づくりが求められている。
取組の方向性	① 日々のケアや支援の中で得られた入居者・家族からの声、チームの取組成果などを共有できる場を設ける。ミーティング、掲示板・グループチャットなどを活用し、日常的に感謝や称賛を伝え合う文化を定着させる。 ② 小さな成果や良い実践をチームで共有し、互いの成長を認め合うことで、職員がやりがいと誇りを持てる職場をつくる。

#### ウ 風通しの良い職場風土づくりで、健康的で働きやすい職場環境を構築する。

実施施策	コミュニケーションの促進と承認の仕組みづくり
現状と課題	認知症ケアなど日々の業務がルーティン化しやすく、成果が見えにくいことから、やりがいや達成感を感じにくい現状がある。また、夜勤など1人勤務の時間が多く、孤立感や精神的疲弊など悩みを抱えている職員もいる。職員同士が互いをねぎらい支え合う風土が十分でなく、コミュニケーションの機会が限られていることも課題である。
取組の方向性	① ミーティングやメッセージ共有の場を活用し、感謝や気づきを伝え合う習慣をつくる。互いを認め合い、働く意欲を高める風土を醸成する。 ② 勤務体制や業務分担を見直し、孤立しやすい職員へのフォローを強化する。支え合い・協働を重視した組織文化を根づかせ、誰もが働きやすい職場環境とサポート体制を整える。

#### エ ICTの活用で業務の生産性を高め、職員の多様な働き方を実現する。

実施施策	ICTを活用した記録・情報共有体制の充実と業務改善
現状と課題	介護業務におけるICT化が進み、令和8年度からは新システムの導入により、インカムを活用した音声入力記録が可能となる予定である。これにより、ケア後すぐに記録ができるようになり、情報共有の迅速化や記録精度の向上が期待される。一方で、新システム導入初期には不安や混乱も想定される。また、ICTの導入効果を十分に発揮させるためには、機器を活用するだけでなく、業務全体の見直しと役割分担の整理を進め

	<p>る必要がある。職員が ICT を活用しながら自らの業務改善を図り、効率的かつ柔軟に働ける環境づくりが今後の課題である。</p>
取組の方向性	<p>① 新システムの活用方法を職員間で共有し、ケア後の迅速な記録と情報伝達を可能にすることで、記録業務や事務処理の効率化を進め、現場職員の負担軽減とケア時間の確保を図る。</p> <p>② ICT 導入と併せて業務内容や役割分担を見直し、短時間勤務や多様な勤務形態など、職員のライフステージに応じた柔軟な働き方を支える体制を整える。</p> <p>③ ICT の活用状況を定期的に検証し、課題を共有・改善することで、業務の標準化と生産性の向上を図る。</p>

(3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立

ア 地域の関係機関との連携を深め、地域の中で果たすべき役割を明確にする。

実施施策	地域との協働・交流の再構築
現状と課題	<p>天神に移転改築してから 10 年が経過し、地域に一定の認知は得られているが、コロナ禍以降、地域行事や学校・ボランティアとの関わりが減少し、地域とのつながりが希薄になりつつある。また、入居者の重度化や医療的ケアの増加に伴い、地域の医療機関や福祉・行政との連携をさらに深め、施設が地域の中で果たすべき役割を明確にしていくことが求められている。</p>
取組の方向性	<p>① 学校・自治会・ボランティア団体などとの交流を再開・拡大し、施設行事や地域イベントを通して地域住民との接点を増やし、地域住民が気軽に訪れられる“開かれた施設”を目指す。</p> <p>② 医療・福祉・行政など地域の関係機関との連携体制を強化し、情報共有や支援のネットワークづくりを進める。</p> <p>③ 特養としての機能を活用した地域のニーズを把握し、貢献活動につなげる。</p>

実施施策	地域動向を見据えた事業再構築と機能強化
現状と課題	<p>出雲圏域では福祉施設の数が多く、利用率・人材確保ともに競争が激化している。入居者の高齢化・重度化に対応し、天神・サテライトおやまの機能分担と地域における役割を再構築していくことが今後の課題である。圏域の今後の動向に注視しながら各事業のあり方を検討していく必要がある。</p>
取組の方向性	<p>① 出雲圏域における供給過多や利用者像の変化を踏まえ、医療的ケア・認知症対応・看取りなど専門性を高める方向で事業のあり方を</p>

	見直す。 ② 天神・サテライトおやまの役割を明確にし、地域ニーズに応じた機能強化と適正規模への調整を進める。
--	-----------------------------------------------------------

イ 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用率の維持・向上と加算取得による収入の安定化
現状と課題	圏域には多くの同種事業所があり、立地には恵まれているものの、供給過多の状況にある。その中で利用率を安定して維持し、選ばれる施設となるための取組が求められている。入居者の年齢層は年々高齢化しており、入所後の在所期間は短期化する傾向がみられる。また、骨折などの重大事故や尿路感染・誤嚥性肺炎といった入院リスクを防ぐことが、利用率の安定につながる重要な課題である。さらに、医療的ケアが必要な利用者の増加に対応し、受入体制や職員のスキル強化についても検討が必要となっている。
取組の方向性	① 地域や関係機関との連携を強化し、施設の特長や強みを明確に発信することで、「選ばれる施設」を目指す。継続的な加算の取得を通じて、ケアの質と経営の安定を両立させる。 ② 骨折や感染症など、入院・長期離脱を防ぐための事故防止・健康管理体制を整備する。医療的ケアが必要な高齢者への対応力を高めるため、看護・介護の連携を強化し、継続的な受入れを可能にする体制を検討する。

ウ 中長期的な視点をもった事業運営で、経営の持続性・透明性を高める。

実施施策	施設機能の維持と環境整備の推進
現状と課題	施設は築9～10年が経過し、令和6年度の現地調査では、建物の外壁・内壁の劣化やカビの発生、空調・給湯設備の腐食などが確認されている。修繕費用も年々増加しており、入居者の安全と快適な生活環境を維持するためには、計画的な大規模修繕が必要である。また、厨房では長年にわたり自前調理を続けており、手づくりの温かい食事は施設の大きな強みとなっている。しかし、人材確保の難しさや設備の老朽化もあり、限られた人員で安定した運営を続けるためには、作業効率の改善と設備更新が求められている。
取組の方向性	① 建物・設備の劣化状況を踏まえた大規模修繕計画の策定により、安全で快適な住環境を確保する。 ② 施設の強みである自前調理を継続するため、厨房設備の更新や作業動線の見直しにより、省力化と効率化を図るとともに入居者の満足

	度向上と職員の働きやすさを両立させる。
--	---------------------

## 3 目標利用率

事業名	定員	R7 年度 見込値	目標値				
			R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
介護老人福祉施設	50 名	97.6%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
サテライト型居住施設	20 名	96.4%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
短期入所生活介護	10 名	80.6%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
認知症対応型共同生活 介護	9 名	99.1%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%

## 4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
介護リフト（更新）	540				540
エアマット（更新）		151	151		
車いすチルトリクライニング（更新）		365	183		
温熱治療器（更新）				278	
泡シャワー（新規）	146	146			
電動ベッド（更新）	1,582	1,582	1,582	1,582	1,582
カラーレーザープリンター（更新）		194			
公用車ハイゼット（更新）		1,785			
公用車ハイエース（更新）		4,294			
ブリクサー	583				
スチームコンベクションオーブン（架台込）	4,040				
ブラストチラー		7,164			
バイタミックス			439		
カムカート			262		
電解水生成装置			1,098		
食器器具保管庫			950		
食缶洗浄機				3,927	
冷蔵庫				961	
冷凍庫				770	
施設サーバ	833				

## 5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
1号機2号機小荷物専用昇降機修繕 エレベーターインバータユニット修理2台	421				

## 6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
(該当なし)					